



## 北の国から ひょっこり編 広い原野の中の小さな学校

数年前、「わが大地のうた」と題してコンサートを催しました。出演メインの笠木透さんが、こんなエピソードを紹介していました。

北海道の最北端ちかく、サロベツ原野の開拓の村に小さな学校があります。その学校で、作者も知らないうちに「わが大地のうた」が校歌のように歌い継がれてきたとか。後になって伝え聞いた笠木さんたち、現地を訪ねてコンサートを開いたという、そんな話でした。

今回、近くを通ったので、思い切って訪ねてみることにしました。学校名は忘れてましたが、近くで聞いて思い出しました。

「庄内小中学校」。夏休み中で誰



学校の体育館で開かれた笠木さんたちのコンサートの写真や色紙が、教室の一角に展示されていました。

もいないかもしれないけど、学校の雰囲気だけでも見られればいいと、広大な原野の道を飛ばしました。

たどりついてみると、だれか先生が出勤しているようで、建物内に電気がついていました。玄関で呼び鈴を

押したら、出てきてくれたのは若い教頭先生でした。

突然の押しかけのきっかけを話したところ、快く招き入れてもらえて、校内の案内までしていただきました。

小・中合わせて4クラ

スで、全員が酪農家の子どもたちだそうです。学校名にもなっている「庄内」は、山形県の庄内地方から来た人たちが開拓した地区だからということも知りました。

そして、「わが大地のうた」。なぜ北海道にはいないツキノワグマが歌われているんだろうと、旭川のほうから転任した教頭先生は不思議に思ったそうです。

じつは、作者の笠木さんは、この学校での出会い以降、ツキノワグマの歌詞をエゾヒグマと変えて歌っているんですよ。そんなことをお伝えすることもできました。



わが大地のうた

作詞 笠木透  
作曲 田口正和

1. から松 こめつが 針葉樹林  
かもしか 月の輪熊 走る稜線  
そびえ立ち 連なる わが山々よ  
そびえ立ち 連なる わが山々よ  
いくたひか春をむかえ  
いくたひか夏をすこし  
いくたひか秋をむかえ  
いくたひか冬をすこし

2. 柿の木 赤土畑 広がる水田  
かわやなぎ 青い水 流れる河川  
この土地に 生きている 私の暮らし  
私に流れる 人たちの歴史  
私がつたつたではない  
あなたがつたつたでもない  
わが山々が私のうた  
わが大地が私のうた

3. がるかや かやつ草 積乱雲  
からすうり 月見草 風渡る草原  
この土地に 私のすべてがある  
この国に私の 今がある  
いくたひか春をむかえ  
いくたひか夏をすこし  
いくたひか秋をむかえ  
いくたひか冬をすこし

4. がもどり 黒松 岩礁海岸  
かつおとい こみつめしめ ひねる水平線  
この国の 歴史を 知ってはいる  
この国の未来を知ってはいる  
けれども私は ここに生まれた  
けれども私は ここで育った  
私がつたつたのではない  
あなたがつたつたでもない  
わが山々が私のうた  
わが大地が私のうた